書道学習における法帖デジタルアーカイブの利用可能性について

村松 彩

書道とは、芸術として表現と鑑賞の力を高めることを目的としたものであり、最初に行う練習方法として評価の定まった古典を傍らに置いて学習する臨書を行う。臨書に使用する古典がまとめられた手本が法帖である。高等学校の授業では、主に教科書に掲載された古典を使用し臨書を行っており、デジタル教材など教科書以外の教材の使用はほとんどされていなかった。しかし、筆者が高等学校で所属していた書道部では、法帖に不便さを感じており、それをスマートフォンなどで撮影して臨書の手本として使用しており、法帖画像を臨書に利用できる可能性があると考えた。本研究では、冊子を撮影した画像ではなく、法帖を撮影する手間がかからず画質も良い「法帖デジタルアーカイブ」を使用した。中でも、評価の高い古典が閲覧でき検索が容易であるU-PARLの碑帖拓本コレクションを使用した。しかし、これらは研究以外の利用目的が想定されておらず、デジタル資料を書道学習に利用できる可能性について詳しく研究された事例も見られなかった。そのため、本研究では書道学習での法帖デジタル画像の利用実態と、書道学習に法帖デジタル画像を利用する際の課題を明らかにしたうえで、U-PARLを実際の学習に利用する際の改善点、学習方法を提案し、法帖デジタルアーカイブの書道学習への利用可能性を見出すことを目的とした。

調査は、部活動の指導者がどの程度法帖デジタル画像を使用した指導を行っているのかについての質問紙調査と、書道学習者に法帖デジタル画像を使用して臨書を行ってもらい、感じた利点・欠点を答えてもらう実験調査の二つを行った。質問紙調査からは、現状でスマートフォン等を用いることで調査によって得られた全ての欠点を補うことは難しいものの、デジタルで対応することにより改善できる欠点が多くあるため、法帖デジタル画像を臨書に使用することには意義があることが分かった。実験調査からは、冊子の法帖の欠点のほとんどを法帖デジタル画像によって補うことができるものの、拡大した文字と法帖の全体像を同時に見ながら臨書することができないという課題が明らかになった。この課題を解決することに加えて初心者が利用することを想定し、U-PARLの碑帖拓本コレクションを公開しているウェブサイトのインターフェースを提案した。また、実験のアンケート結果から経験者と初心者それぞれの法帖デジタル画像を使用した学習の流れを提案した。

本研究では、書道学習に法帖デジタルアーカイブから保存した法帖デジタル画像を使用する意義があることを明らかにした。また、閲覧画面を改善し、使用方法や流れを工夫することにより、法帖デジタル画像のみを使用して書道学習を行うことも可能であると考えられる。そのため、今後は本稿で提案した法帖デジタル画像を使用した学習の流れを実際に書道学習者に行ってもらい、使いやすさを感じるのかについて調査する必要がある。

（指導教員　村田 光司）